

連載「道産木材データベース」

林産試験場では、樹木の生態・形態、木材の性質・用途および関連の文献情報等を樹種ごとに取りまとめたデータベースを制作中ですが、ホームページへの公開を前に、記事部分を順次本誌で紹介しています。

(担当：企画指導部普及課)

オニグルミ

- 名称 和名：オニグルミ
アイヌ語名：ネシコ（東北地方のなまりが語源との説あり）
漢字表記：鬼胡桃
英名：Japanese walnut
- 学名 *Juglans ailanthifolia* Carr.
- 分類 クルミ科クルミ属
- 分布 北海道・本州・四国・九州（屋久島まで）・サハリン（中国にも分布するという説あり）



生態・形態 温帯の適潤地に生える落葉樹。雌雄同株。花芽が雌雄別々の単性花。高さ 30m、太さ 1m 近くになる。樹皮は、小径木では灰白色で比較的平滑、太くなると暗褐色（よく白斑が混ざる）になり縦に深く裂ける。枝は、灰褐色で開出する。1 年生枝は 1～1.5cm と太く、せん毛が密生する。若枝には猿面形あるいは T 字形の大きな葉痕が隆起する。冬芽は裸芽で外側の 1 対の葉が芽鱗の役目をはたす。頂芽は円錐形で長さ 1.5cm ほど。葉は、互生し、奇数羽状複葉で葉柄を含めた長さは 70～80cm にもなる。小葉は 4～10 対、中央部ほど大形で長さ 10cm 幅 4cm ほど。雄花は緑色で、太いひものような 20cm ほどの穂が数本垂れ下がる。雌花は紅色で、10～20 個を疎生させた穂が斜上する。果実はほぼ球形で直径 3～4cm、中に堅い核果をもつ。核果はエゾリス等小動物の重要な食料で、分散貯蔵されることで分布域を広げている。アレロパシーがあり樹冠下に植物が生えるのを阻害するため、林業ではきらわれる。

オニグルミの「オニ（鬼）」は大形のこと。



若木の樹形



樹皮



若枝、冬芽・葉痕



葉



雄花



雌花



果実

木材の性質 散孔材。早材から晩材にかけて太い道管が集中する(写真(木口面))ことから「半散(環)孔材」とも呼ばれるもので、一般的な散孔材に比べ年輪がややはっきりしている。心材はくすんだ褐色、辺材は灰白色で、心材・辺材の境界はあきらか。艶があり、木理が美しい。強靱で衝撃吸収性が高く、割れ目ができにくい。加工がしやすく表面仕上がりが良好。狂いが少ない。

主な用途 材色の濃さ、艶、木理などが好まれ、家具材・工芸材・文具小物などに使われる。壁・フローリングなど建築材利用も多い(突き板を化粧張りした合板が一般的)。加工がしやすく寸法安定性が高いので器具材や鉄砲の台に適す。

果実の子葉は、そのまま食べたり、クルミ油を採って食用や木製品の保護剤にする。果皮や樹皮を染料とする。砕いた殻をゴムに混ぜスタッドレスタイヤを作るメーカーもある。アレロパシーがあるとはいえ公園樹として人気がある。

物理的性質

気乾比重	0.53
平均収縮率 (接線方向)	0.31%
(放射方向)	0.18%

機械的性質

曲げヤング係数	95tf/cm ²
曲げ強さ	800kgf/cm ²
圧縮強さ	420kgf/cm ²
せん断強さ	110kgf/cm ²

加工の性質

人工乾燥の難易	中庸
割裂性	中庸
切削その他の加工性	容易
表面仕上	良好
保存性	低い



木口面



板目面



柁目面

※木材の性質それぞれの意味については、連載1回目の2007年12月号で説明しています。

引用 (木材の性質に関する数値等)

・日本の木材：(社)日本木材加工技術協会 1989

参考

- ・原色日本植物図鑑 木本編【II】：北村四郎・村田源 保育社 1979
- ・図説樹木学－落葉広葉樹編－：矢頭猷一・岩田利治 朝倉書店 1966
- ・落葉広葉樹図譜 冬の樹木学：四手井綱英・斎藤新一郎 共立出版(株) 1978
- ・知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編：知里真志保 平凡社 1976
- ・外材と道産材－材質による比較(広葉樹・環孔材)：佐藤真由美 北海道立林産試験場林産試だより 1992年7月号 <http://www.fpri.asahikawa.hokkaido.jp/rsdayo/26153024001.pdf> (文責：石倉)